

## 令和4年度第7回 感染症発生動向調査部会

令和4年10月19日

月番：大西 秀典（感染症全般）、石山 俊次（STI）

### 1 前月の感染症発生動向について（2022年第35週～39週・9月）

#### <全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は22例で、2019年の同期累計報告数306例、前年の同期累計報告数217例、本年の累計報告数が214例となっており岐阜県下においてはCOVID-19流行後の発生減少が継続している。従来通り基本的には高齢者が多いが、30、40歳台の若年層にも散見される。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が10例、うちO157が6例の発生が報告されている。
- ・ 四類感染症については、E型肝炎が1例、レジオネラ症が1例報告されている。
- ・ 五類感染症（性感染症以外）については、アメーバ赤痢が1例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が3例、ジアルジア症が1例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が1例、侵襲性肺炎球菌感染症が1例報告されている。
- ・ 新型インフルエンザ等感染症として、新型コロナウイルス感染症が今月の報告数は49,622例、本年累計272,136例と岐阜県下においても流行が続いてはいるが急激に減少傾向となってきた。

（STI）

- ・ 後天性免疫不全症候群：AIDS 1例と その他（AIDS指標疾患以外の症状があるもの）1例、計2例の報告があり、いずれも男性であった。本年累計は4例で、前年同期累計（10例）、2019年同期累計（9例）と比べて半分以下に減少している。
- ・ 梅毒：男性10例、女性3例、計13例の報告があった。本年累計は88例となり、前年度同期累計61例、2019年同期累計60例と比べて明らかに増加している。一時減少傾向がみられた女性の比率は再び増加傾向に転じている。全国の本年累計は9,312例で、昨年1年間の感染者数7,983人をすでに大きく上回り、10月中に1万人を超えるのはほぼ確実である。

#### <定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ RSウイルス感染症は県全体での発生数149例、前月比24.9%と流行が終息傾向である。
- ・ 咽頭結膜熱は23例の発生があるが、前月比42.8%と減少傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は43例の発生があった。前年同期比107.5%と同等で、前月比191.1%と冬期に向けて増加傾向である。
- ・ 感染性胃腸炎は305例の発生があり、前月比92.8%と発生数は横ばいの状況である。前年同期比134.4%で増加傾向ではあるが、定点当たり報告数が全国平均よりは少ない。

- ・ 手足口病は 923 例の発生があり、前月比 187.4%、前年同期比 7100%と流行がみられた。
- ・ ヘルパンギーナは全国的には増加していたが、岐阜県のおいても遅れて増加傾向(前月比 140.5%)となり 65 例発生した。定点当たり報告数は全国平均よりは少ない。
- ・ 突発性発疹は 58 例の発生があり、前月比 98.7%、前年同期比 118.4%で、コンスタントに発生がみられている。
- ・ 伝染性紅斑の発生県内で 2 例のみで流行はない。
- ・ 基幹定点疾患を含め、その他目立った調査対象感染症の流行はみられていない。

(STI)

- ・ 性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の報告に著変はみとめられなかった。

## 2 検討すべき課題

### <事務局から>

- ・ 感染症発生動向調査の位置づけについて

## 3 情報提供すべき事項

冬期に向け気温が下がってきたことが原因か非 SARS-CoV2 の呼吸器感染症が流行してきた印象があります。フィルムアレイ検査ではライノ/エンテロウイルス、ヒトメタニューモウイルス、パラインフルエンザウイルスの検出例が増えてきています。

## 4 情報提供（月番委員専門分野から）

第 54 回日本小児感染症学会学術集会 2022/11/5-6 アクロス福岡で開催されます。

## 5 その他（感染症対策推進課から）

- ・ 今冬のインフルエンザ総合対策の推進について
- ・ サル痘に関する情報提供及び協力依頼について
- ・ サル痘対応に関する医療機関向け臨時セミナーについて
- ・ エボラ出血熱に係る注意喚起について
- ・ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行について
- ・ 鳥インフルエンザ発生状況